



# ŌMIYA NEWS



No.3

2024年7月15日 JR東労組大宮地本

JR東労組大宮地本  
第25回定期大会

**大会宣言をみんなで読み合わせ、  
全職場から共にたたかいを創り出そう!!**

## 大会宣言(案)

本日JR東労組大宮地本は、さいたま市文化センターにおいて第25回定期大会を開催し、たたかいの成果と課題を明確にし、新たな運動方針を満場一致で確認した。

私たちはこの間職場活動を基軸として、組織強化・拡大の実現に向けてたたかいを創り出してきた。

24JR総連春闘では統一要求・統一闘争にこだわり、職場活動を積み上げ、ベアに過去最大の格差が発生する回答を許さず、緊急再申し入れのたたかいを全職場から創り出した。要求の前進は勝ち取れなかったが、4名の組織拡大を実現し組織は確実に強化された。24春闘の教訓を我が物とし、組織力と格差賃金への問題意識をさらに高め、成果主義型人事・賃金制度導入を許さないたたかいに結実させよう。

現在各所で異常な職場管理が横行している。旧宇都宮運輸区での懲罰的日勤教育により病欠に追い込まれた仲間は未だに職場復帰できていない。団体交渉では精神論と責任追及で仲間を追い込んだ実態が明らかとなる一方、会社はパワハラ労災申請に対して「疑義を呈さざるを得ない」との回答を示し、対応を拒否している。旧大宮運輸区では、「許可を得て休日出勤をせずに帰宅した」組合員に対し不当な懲戒処分と転勤が発令された。また、この間撲滅に向けて再三労使議論を重ねてきたにも関わらず、あらゆる手段を用いて不当労働行為が繰り返されている。そして、エルダー雇用制度における会社の不誠実な対応や、地本執行委員に対する本人希望の伴わない他支社職場への異動の強行等、一方的で傲慢な経営姿勢が蔓延している。このような職場風土の行き着く先は「命令と服従」の職場であり、絶対に認められない。私たちはこの間、異常な職場管理と経営姿勢に抗し、他地本の仲間とも広範な連帯を創り出してきた。たたかいの成果と教訓を活かし、異常な経営体質に立ち向かい、全組合員でたたかおう。

会社施策と組織再編の進展により職場環境が激変し、厳しい職場現実への悲痛な叫びが寄せられている。「融合と連携」や基地再編、統括センター化による業務量増大と要員不足が深刻化し、過去最高の働き度の下、営業職場での出札窓口縮減凍結による負担増大、運転士による車掌業務の運用拡大、車掌職場での休日出勤増加、検修・工務職場での過度な要員削減等、大きな歪みや問題が発生している。

その様な中、各系統で事故・事象が相次ぎ「経営のトッププライオリティ」であるはずの安全が大きく揺らいでいる。人身事故の救出作業中に隣接線を抑止解除した人命が奪われかねない事象や、新幹線での停電・感電事故や大幅滑走等重大な事象が相次ぎ、要員や教育体制の問題が明らかになっている。また、乗務中にタブレット端末で動画を閲覧する事象やワイヤレスイヤホンで音楽を聴きながら運転するという事象が発生している。労働組合として改めて「安全とは何か」を問い、仕事に対する姿勢を見つめ直さなければならない。今こそ己自身と真剣に向き合い、続発する事象と職場現実に危機感を持ち、「命」を最大の価値基軸とした安全哲学を再確立し、「安全・健康・ゆとり」の担保された職場の実現に向けてたたかおう。

私たちはこの間多くの職場で実践を重ね、昨年の大会以降9名の組織拡大を実現し、過半数代表者選挙では6職場で勝利することが出来た。厳しい状況の中で問題意識を共有し、仲間の悩みや不安に寄り添い、東労組の存在意義を語り広めてきた成果である。仲間の実践を我が物とし、全組合員で組織強化・拡大を推し進めていこう。

岸田政権は敵基地攻撃能力保有や基地機能強化、武器輸出解禁など軍備拡大と軍需産業活性化を目指している。このままでは行きつく先は戦争であり、犠牲になるのは弱い立場の労働者である。私たちは戦争政策に反対し、美世志会や9条連の仲間と連帯し、憲法9条を守り広めるために行動していこう。

大宮地本は「抵抗とヒューマニズム」の精神で、仲間と共に厳しい現実と向き合い乗り越えていく事で、安全や命を脅かす経営姿勢を打ち破り、さらなる組織強化・拡大を実現していく。1万人組織の実現に向け、仲間との議論や実践を通じ全職場からたたかいを創り出そう！

以上宣言する。

2024年7月13日  
東日本旅客鉄道労働組合  
大宮地方本部  
第25回定期大会